

## 飲食チェーン店集積の立地分布と都市構造 — 首都圏駅周辺の業種単位分布に注目して —

長崎 大地, 後藤 寛  
横浜市立大学 国際総合科学部  
連絡先: <yutakagt@yokohama-cu.ac.jp>

- (1) 動機:** 個人経営店を一掃して都市部の日常生活に浸透している飲食チェーン店の個別の立地についてはすでに数多く研究の蓄積がある。それに対して本研究は代替性のある同一(類似)カテゴリーをくくった店舗群としてとらえることにより「どこにでも何かしらある」店舗群の存在を一種の生活インフラとみなし、駅勢圏を単位とした生活圏内でのアクセシビリティによる業種の選択肢の程度によって街を評価する指標をつくらうとするものである。
- (2) 方法:** 公共交通の利用率が高く店舗の凝集性の高い首都圏を対象としてNTTのiタウンページデータを基本に主要チェーン店の店舗リストを作成した。現時点で11業種61社10,440店の店舗リストを作成し、東京大学空間情報科学研究センターのアドレスマッチングサービスを用いて地図を作成した。また駅データとしては改札口を多数もつ地下鉄駅の取り扱いも考慮して改札口起点ではなく国土数値情報で得られる駅ホーム位置形状を用い、不動産情報で徒歩1分とされる80mを基準に80m, 240m, 400mのバッファを生成して駅近隣地域とした。
- (3) 結果:** まずこれら店舗群の凝集性の確認であるが、駅からの最寄圏は地下鉄駅の扱いを考慮して改札口起点ではなく国土数値情報の駅ホーム位置を基

に80m, 240m, 400mのバッファを生成した。東京23区内では大半のチェーン飲食店がどこかの駅から240m圏内に立地することが確認できる。都心部では地下鉄駅が密集して240mバッファを用いても重複がかなりみられる。一方で駅が比較的少ない足立区などでは240m圏外への店舗立地も多数みられる。

駅乗降客数との関係は単純には評価できなかった。乗降客数水準に差があるJR, 民鉄, 地下鉄間の比較方法, 複数駅が隣接する際の取り扱いなどに工夫を要する。その上でまず代表的な飲食チェーンのカテゴリーとしてハンバーガー(6社), 牛丼(4社), カフェ(6社), エスプレッソ系カフェ(4社)の4業種について駅ごとに何業種が周辺に存在するかをアクセシビリティの指標として図2に図示した。

- (4) 謝辞:** 本研究は東大CSISアドレスマッチングサービスを利用して実施した。ここに記して謝意を表したい。
- (5) 参考文献:** 後藤寛(2012)喫茶店の立地分布と存立要因。「日本地理学会発表要旨集」, 82.

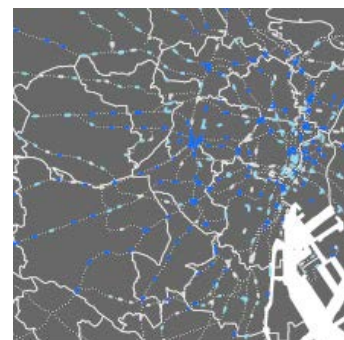
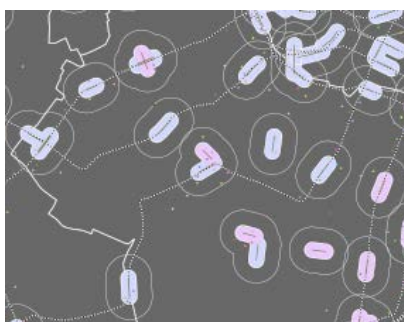
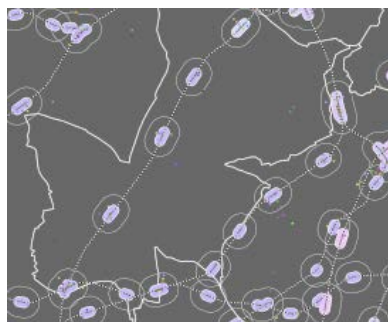


図1:(左)東京都港区周辺・地下鉄駅集中エリア (右)東京都目黒区周辺・民鉄駅集中エリアの80mバッファ(色つき部分)240mバッファとチェーン飲食店の分布

図2:23区西南部の駅ごとの周辺業種別の分布